

# 『もりおかの短歌』

## 夏の部 優秀賞十首

改札ではじける笑顔 えがお

ふうりん

風鈴が「おかえりなさい」と

りんしょう

輪唱している

宮城県仙台市 郷家 美磨

啄木の一握の砂手に持ちて も

たくぼく いちあく すなて

夏の城跡

なつしろあと

木陰で開き

盛岡市 八重樫 敏夫

田舎家の庭の いなかやにわ

紅玉色付きて

こうぎよくいろつ

甘い芳香淡い思い出 で

あま ほうこうあわ おも

盛岡市 小林 貴史

だれ 誰よりも急いだ君は  
いそ きみ

もりおか

盛岡の

しんかんせん

新幹線を見たがったろう

茨城県つくば市 渡邊

陽基

まち わか お  
この街との別れ惜しみつ

わた はし

渡る橋

にどな ばし かいうんばし

二度泣き橋とふ開運橋を

青森県青森市 鈴木

操

しゅうれい すがた まぎやく いわてさん  
秀麗な姿と真逆な岩手山

せなか ほとけ

背中に仏

かご

加護のあり

兵庫県神戸市 金井

靖子

ぼんひか  
盆控え

な つましの ははそつじゅ

亡き夫偲ぶ母卒寿

まる せなか くさかりはげ

丸い背中で草刈励む

盛岡市 三澤

信裕

あゆつ  
鮎釣りの

こうしゅう

かわらべ

講習なりや川原辺に

かんせいたの

ひび

こどもの歓声楽しく響く

盛岡市 石川 修子

もりおか

まち

みみ

さち

く

盛岡の街は耳から幸が来る

チャグチャグの音

かわ

おと

中津川のせせらぎ

盛岡市 中島 久光

つま

しゅっさんさどがえ

もりおかに妻の出産里帰り

あかごま

赤子待ちわび

きぼう

なつぞら

希望の夏空

長野県上田市 瀧澤 佳士

夏の部へジュニア部門へ

優秀賞一首

該当なし

【講評】

一般部門

今夏の日本列島は記録的な暑さに見舞われた。盛岡も例外ではない。しかし暑い暑いと言えば尚更暑い。そうであるのなら秀麗な岩手山を眺め、中津川のせせらぎを聴きながら夏をやり過ごすのも悪くない。そうこうしているうちに、ほら夏の暑さも、そして人生さえも、気がつけば新幹線のように瞬く間に過ぎ去ってしまいうさう…。もしそうならいっそうのこと歌の中に、風鈴の音でしばしの涼が舞い降りる盛岡駅での再会や、盛岡城址の葉桜にかざした心の内を、一瞬の輝きを閉じ込めてしまおう。夏の詠み人の想いがそこにあるのだ。

平成三十年九月選 夏の部

投稿数 百二十四 首

選者 山本 玲子